

## 試験研究評価シート（事前）

評価の種類	事前評価	担当名	製菓食品担当
課題名 (研究テーマ)	植物性自然毒の多成分迅速一斉分析法の検討	研究者名	(正) 岩城 達也 (副) 中村 哲也
研究期間	令和6年度～7年度		
予算額 (千円)	令和6年度：505千円 令和7年度：505千円	予算種類	国補 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">県単</span>
必要性	<p>植物の中には、体内に毒成分を持っているものが多く知られており、植物性自然毒による食中毒は、細菌性食中毒等と比較すると、件数や患者数は少ないものの、症状が重篤化しやすく、死に至る事例もあり、食品衛生上の重要な課題とされている。</p> <p>中毒が発生した際、原因を速やかに特定するため、当センターは、食品の残品を分析し、毒成分を同定する役割を担っており、様々な植物性自然毒を迅速に分析できる体制を構築しておく必要がある。</p> <p>そこで、最新の知見等を踏まえ、健康危機事象に対する分析体制強化の一環として、迅速な原因究明、健康被害拡大防止に向けた、多数の植物性自然毒の成分を一度に分析可能とする「多成分迅速一斉分析法」の検討を行う。</p>		
目標	調理済み食品等において、迅速に分析できる植物性自然毒の多成分一斉分析法を確立することにより、健康危機事象発生時に、迅速な原因究明による健康被害拡大防止を図る。		
研究内容	試料の前処理法や高速液体クロマトグラフ・タンデム四重極質量分析計（LC-MS/MS）の測定条件を検討し、調理済み食品等に適用できる植物性自然毒の「多成分迅速一斉分析法」を確立する。		
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>①対象とする植物性自然毒成分の選定</li> <li>②高速液体クロマトグラフ・タンデム四重極質量分析計（LC-MS/MS）の測定条件の検討</li> <li>③試料の前処理法の検討</li> <li>④調理済み食品等での添加回収試験の実施</li> </ul>		
その他			